

工房

夢来夢来

む

く

む

く 電話 52-3329

かわらばん

第2号 平成7年12月10日発行

発行責任者 田内 勝枝

藤工芸

勝又先生のご指導で
藤工芸をやった。
皆初めての経験なので
胸をウキウキワクワク
させながら楽しくやった。
初めてなのであまりうまくできな
かったが、自分が編んだ物はやはり
我が子の様にかわいい。
自分の作った作品は世界にたった
ひとつしかない。 田中愛子



第1号で工房夢来夢来の概略をお伝えしましたが、ここでちょっと詳しく。在宅の障害者が集い、作業ができる場として、狭山市障害者団体連絡会が母体となり、連絡会からの援助金を基に開設されました。藤、草木染め、編み物などの製作に取り組み市役所内福祉の店アミーにて販売し（写真）、運営費に充てています。

障害を持った人達が希望を持って楽しみながら作業できる施設、体制づくり、ボランティア、カーボランティアの充実を着々と進めています。ここではノーマライゼーションの真のありかたを追究しているのです。

最後に、夢来夢来への問い合わせがありますが、内容を知りたい方、ボランティアをしたい方、是非ここにおいで下さい。

夢来夢来夢日記

山川 早苗

多くの人の善意に助けられて、一工房夢来夢来一も三カ月が過ぎました。

不自由な身体で何かを作り出して行くということは、大変な努力を必要とします。

でも、みんな一生懸命がんばる姿に、明るい未来を感じます。

一つの作品が完成した時に、見られる笑顔が格別です。

生産性という面ではいま一つですが、障害者の持つあらゆる能力を、引き出せたらいいなと思っています。

私自身障害者であるけれど、どこまで出来るのか、まだまだ発展途上だと思っています。

でも、編み物なら人に負けない自信があります。

まあ、時間は何倍もかかりますけどね。

仕上がりが良いればいいと思います。

そう思えるまでにはけっこう努力もしたし、失敗もしました。

一夢来夢来一の所生産も、いつかは自分の得意なものに、きっと出会えると信じます。

そう、ローマは一日でならず、です。

これからも私で出来ることは、力の限り応援します。

障害者、ボランティア、障害児者のお母さん達、一体となって、一夢来夢来一を育てて行きましょうね。

年末を迎え何かと忙しいと思いますが、皆さんお身体お大切に。来年も楽しい夢日記が記せるよう期待しつつ……。

生命は

吉野 弘 詩集から

生命は

自分自身だけでは完結できないように
つくられているらしい

花も

めしべとおしべが揃っているだけでは
不十分で

虫や風が訪れて
めしべとおしべを仲立ちする

生命はすべて

その中に欠如を抱き
それを他者から満たしてもらうのだ

私は今日、

どこかの花のための
蛇であるかもしれない

そして明日は

誰かが
私という花のための
蛇であるかもしれない



行事

ユニークダンス



〈感想〉 中田亜由美

10月15日に福祉バザールがあり、その時の舞台発表で車椅子ダンスをしました。車椅子ダンスは初めてやりました。練習も何回もやり、最初は覚えるので必死だったけどだんだんスムーズに踊れるようになったので嬉しかったです。当日もバッチリ決まって皆さんからも評判が良かったので楽しくできました。

12月10日にはダンスパーティーが開催されます。

於 狭山台体育館



◎ 寄贈

編み機	4台	(弘松 様)
工業用電動ミシン	1台	(布田 様)
工業用電動ミシン	1台	(狭山市社会福祉協議会)
ポータブルミシン	1台	(狭山市社会福祉協議会)
ポータブルミシン	1台	(大沼 直実 様)
ワープロ(書院)	1台	(堀 文子 様)
ラジカセ	1台	(堀 文子 様)
布地		(人間川織物 様)
ニット端切れ		(人間川ニット 様)
アイロン、アイロン台		(藏内 様)
エレクター		(田内 様)
カラオケセット		(田内 様)

◎ 借用

夢来夢来施設		(狭山市役所)
車椅子	3台	(狭山市社会福祉協議会)

◎ 協力

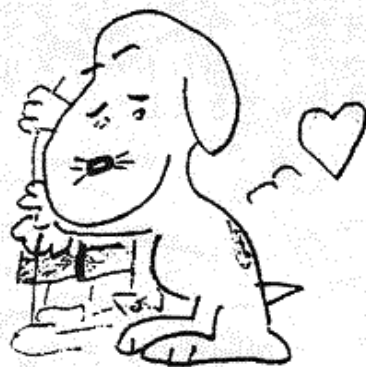
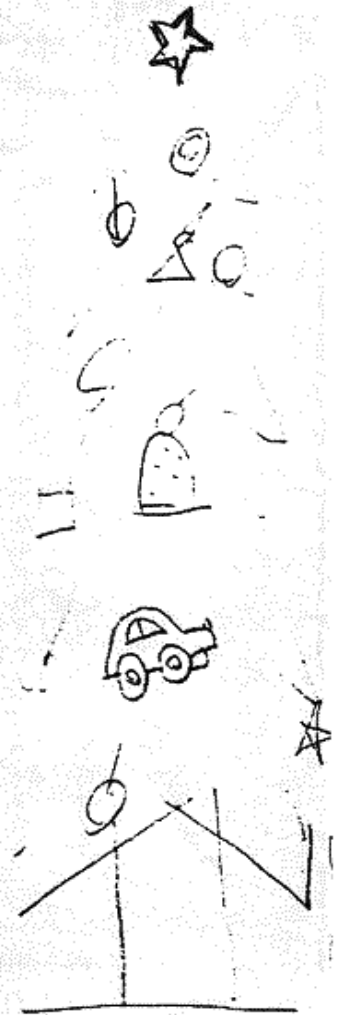
工房大掃除 個人ボランティア多数

◎ 車の送迎

ホンダボランティアセンター	(きぼう号)
水谷 真次郎	(自家用車)
鈴木 敏雄	(自家用車)
戸田 敏雄	(自家用車)
清水 久三	(自家用車)
大野 博	(きぼう号)
佐々木 久	(自家用車)
小浜	(やまびこ号)
米山 公子	(自家用車)

以上 その他 沢山の方にご協力いただいています。

ありがとうございました



< 募 集 >

夢来夢来発行文芸集を作りたい
と思っています。

皆さんの素晴らしい作品を
募集しています。

ふるってお寄せ下さい。

小説 随筆 詩 俳句

短歌 川柳 他

編集後記

真夏の西日が暑かった開所から3カ月たった。
その間に、ユニークダンスの練習、作品の製作と、
めまぐるしく、悩む間もなく、太る間もなく、
毎日が過ぎていってしまった。
年末を迎えてここでひと息。少しふり返ってみる。

